

韓国語標準語・済州方言・全羅南道方言の終助詞と情報管理機能¹

Information management of final particles in standard Korean, Jeju dialect, and Jeollanam-do dialect

金 善美

KIM Sunmi

キーワード：終助詞、終結語尾、情報管理機能、韓国語標準語、済州方言、全羅南道方言

1. はじめに

日本語と韓国語の標準語における終助詞体系と、韓国語済州方言・韓国語全羅方言の終助詞について、まず終助詞の豊富な言語と文末語尾の豊富な言語を比べて考えてみたい。日本語の終助詞には、断定を表す「さ」、疑問を表す「か、かい、かな、かしら」、確認・同意を表す「ね、な」、知らせを表す「よ、ぞ、ぜ」、感嘆を表す「なあ、わ」、記憶の確認を表す「っけ」、禁止を表す「な」等がある(益岡・田窪(1992))。これらは命令形、終止形などの終止語尾の後につくいわゆる小辞である。一方、韓国語の標準語の基盤になっているソウル方言では、終助詞と言えるのは丁寧形(聞き手に対する敬意)を表す「=yo」(+待遇)と、終助詞「=kulye」(±待遇)のみであると言え、ソウル方言は終助詞が発達した言語とは言い難い。ソウル方言では日本語の終助詞に当たる情報機能は動詞の語尾として現れる。たとえば、「-ci」(確認)、「-kwun」(驚き・発見)、「-ney」(発見)、平叙・疑問・命令・勧誘の語尾など、話者における情報の出入りにかかわる形式は、動詞の語幹に付き、活用語尾として扱われる。

以上のように、情報機能を担う要素として終助詞が発達した日本語と、終助詞はさほど発達せず日本語の終助詞に当たる情報機能を動詞の終結語尾が担う韓国語標準語(ソウル方言)に比べて、それら両言語の中間的な体系だと言える韓国済州島の済州方言及び全羅方言においては、終助詞の種類、接続環境などがソウル方言とは異なる。しかし、現在の記述の水準は標準語には遠く及ばない。

¹ 本研究は JSPS 科研費 19K00618、科学研究費補助金(課題番号：21320082)及び科学研究費助成事業(課題番号：25284078)の成果の一部である。本稿に対して貴重なコメントをくださった玉井尚彦氏、千田俊太郎氏に感謝申し上げます。

本稿では日本語と韓国語の標準語における終助詞と終結語尾の情報管理機能について論じた金善美(2020)を踏まえて、韓国語方言の終助詞の情報機能について、韓国語済州方言・全羅南道方言に焦点を当て、韓国語標準語・済州方言・全羅南道方言の終助詞と情報管理機能について考察することを研究目的とする。

2. 日本語と韓国語の標準語における終助詞と終結語尾

金善美(2018)と金善美(2020)では、日韓両言語の標準語の終助詞と終結語尾の対照を通してこそ、両言語の情報管理機能がより明確になることを示した。具体的には次のようなことを指摘している。

1. 日本語の終助詞「ね」「よ」は、聞き手を必要とする対話でのみ出現し、話し手の事態認識上の感嘆・驚きを聞き手に伝えるという情報管理機能を担う。独話や心内発話の中では現れない。

2. 日本語の終助詞「わ」「な」「なあ」は、話し手の独話や心内発話の中で出現し、話し手自身に対して、事態認識上の感嘆・驚きという情報を再認識させる情報管理機能を担う。

3. 韓国語の終結語尾の「-kwun」「-ney」「-ci」は、対話の中でも出現可能であるが、話し手の独話や心内発話の中でも出現し、話し手自身に対して、事態認識上の分析・感嘆・驚き・確認という情報を再認識させる情報管理機能を担う。

4. 韓国語の「-kulary」は用言の活用形、「=kulye」は終助詞であることから、現代韓国語の終助詞は「=yo」（尊敬）と「=kulye」（先行文脈の強調）のみを認める。

5. 韓国語の丁寧形終助詞の「=yo」と、終助詞「=kulye」は独話や心内発話においては使われず、必ず聞き手が存在する際に現れる。ただし、事態認識上の分析・感嘆・驚き・確認という情報を再認識させる情報管理機能は担わない。

2.1 韓国語標準語の丁寧形終助詞の「=yo」

ここで、韓国語標準語の丁寧形終助詞の「=yo」について用法を再確認しておきたい。韓国語標準語の丁寧形終助詞の「=yo」は、おもに文末の位置において、非丁寧体「hay 体」終結語尾や一部「hakey 体」終結語尾に後続し、聞き手に尊敬の意味を表す補助詞である。また文中の位置においては、体言や副詞、接続語尾に後続して聞き手に尊敬の意味を表す補助詞である(『표준국어대사전』(phyocwunkwuketaysacen, 標準国語大辞典)、金善美(2020))。次の例(1)は韓国語標準語の丁寧形終助詞の「=yo」の例である。

(1) ton-i eps-e=yo.²

お金-が ない-非丁寧体 hay 体終結語尾-終助詞

「お金がありません。」

(『표준국어대사전』(phyocwunkwuketaysacen, 標準国語大辞典)、金善美(2020))

一方、文中に位置し、体言や副詞、接続語尾に後続し、聞き手に尊敬の意味も表す例としては以下の例(2)のようなものがある。

(2) a. pangkum=yo ku mal acwu mescyesseyo.

今-終助詞 その ことば とても 素敵でした

「今ですね、その言葉はとても素敵でした。」

b. maum-un=yo teepsi cohayo.

心-は-終助詞 この上なく いいです

「心はですね、この上なくいいです。」

c. ese=yo ilke poseyyo.

早く-終助詞 読んで みてください

「早くですね、読んでみてください。」

(『표준국어대사전』(phyocwunkwuketaysacen, 標準国語大辞典))

3. 韓国語済州方言における終助詞

韓国語済州方言の終助詞については、コ・ジェファン(=고재환 2011)が「強勢添辞」(終助詞に該当する形式)として、丁寧語に接続する①「=massum/=massim」と②「=yang」、非丁寧語に接続する③「=i」、丁寧語と非丁寧語の両方に接続可能な④「=key/=keyn」を挙げている。

またイ・ギガブ(=李基甲 2003)は、韓国語済州方言の終助詞「=yey」と「=yang」が標準語の「=yo」、慶尚南道方言の「=yey」、全羅南道方言の「=(i)lawu」に対応する助詞だと指摘し、当該文のスピーチレベルを丁寧体文末形式の「hapnita 体」に固定させる役割をすると指摘している。

² 韓国語の例文で太字(終助詞)は本稿の筆者による。また例文で終結語尾の前にハイフン、終助詞の前に＝をつけて区別している。以下同様。尚、韓国語のローマ字表記は、S. E. Martin による Yale 式ローマ字表記を用いる。

ここで濟州方言終助詞「=key」は、語尾「-key」として現れることがあり (is-swu-ta=key./is-swu-key. 「ありますよ」)、終助詞と語尾がほぼ同一の機能を果たす例である(Tida et al. 2012)。またコ・ヨンジン氏によると、本来の方言形式ではないが、濟州島の若者の間では「=ya」という終助詞が観察される(口頭による指摘)。

濟州島は全羅道と距離的に近く、植民地時代(つまり韓国の解放前)までは行政区域上、全羅道の管轄下にあったことを踏まえると、この「=ya」は全羅方言の非丁寧体文末形式の「hayla体」の助詞「=ya」(イ・ギガブ)(1998)との関連性を認めてよい。さらに濟州方言の母方言話者であるコ・ジェファン(=고재환 2011: 36)が「=key/=keyn」を現代韓国語の「=ya」(実際には標準語とは言い難い)に当たるとするのは、方言を上述の新方言で説明した可能性がある。

用法の側面では濟州方言の終助詞「=massum/=massim」と「=yang」はソウル方言の終助詞「=yo」に対応し、聞き手待遇の意味(+待遇)を含んでいる。一方で、濟州方言で非丁寧語に接続する「=i」(-待遇)と、丁寧語と非丁寧語の両方に接続可能な「=key/=keyn」(±待遇)は、日本語の「ね」と類似の用法を見せ、(-待遇)(±待遇)というそれぞれの意味は丁寧語尾との結合の有無によってのみ表わされる。

3.1 韓国語濟州方言の終助詞「=key」と「=yey」

本稿では、韓国語濟州方言の形態論的分析や語彙研究に関する考察方法として Tida et al. (2012)、金善美(2015)、千田(2017)の研究成果を踏まえた。濟州方言の終助詞「=key」については金善美(2015)において次のような例が見つかる。

(3) 김: 아니우다게.

ani-wuta-key.

違う-ます-よ

「違いますよ。」(‘key’は強調)

(金善美 2015: 84)³

例(3)の終助詞「=key」は丁寧語に後続し、聞き手待遇の意味(+待遇)を含んでいるばかりではなく、強調の意味を持っている。次の例(4)も見られたい。

(4) 김: 경 영 허끄민, 우리 씨집간 보난예

³ 例を部分的に修正した。例(3)のデータ情報は次の通りである。1) 録音の日付: 2011年8月21日。2) 録音の場所: 韓国濟州島(韓国濟州特別自治道)濟州市。3) 対話者: 김(金: K, P-M) 1923年生まれ、濟州島出身。4) 録音者: 金善美。

kyeng yeng hekku-min, wuli ssicip-kan po-nan-yey
 そう こう 撒く-れば 私達 嫁-行って.[過去] 見る-たら-ですね
 씨어머님이 경 험십테다게.
 ssiemenim-i kyeng heymsi-pteyta-key.
 姑-が そう する.[不完全]-ていたのでした-よ
 「そう、こう、撒くと、私たちお嫁に行って、(それを) 見たらですね、姑がそう
 していましたよ。」(‘key’は強調) (金善美 2015: 89)⁴

例(4)における終助詞「=key」も例(3)と同様、丁寧語に後続し、聞き手待遇の意味(+待遇)を含んでいるばかりではなく、強調の意味を表している。ところで、上記の例(4)にも出現している濟州方言終助詞「=yey」は文中にも出現し、日本語の終助詞「ね」に該当する意味を持つ終助詞である。「=yey」の文における出現位置は、韓国語標準語の丁寧形終助詞の「=yo」と同様、文末と文中の両方に出現可能である。

まず、文末に出現する例として金善美(2015)において次のような例が見つかる。

(5) 고: 난 그 호박^입국 먹어난 먹어났수다.
 na-n ku hopak-^ip-kwuk mek-enan mek-enas-swuta.
 私-は その カボチャ-葉-汁 食べる-[経験].[過去] 食べる-[経験].[完了]-ます
 「私はそのカボチャの葉っぱのお汁を食べたこと(ある)、食べたことがあります。」
 김: 경헛지, 예?
 kyengheys-ci, yey?
 そうだ.[完了]-ですね
 「そうだったでしょう。」 (金善美 2015: 95-96)⁵

上記の例(5)は終助詞「=yey」が文末に出現する例であるが、終助詞「=yey」は例(4)と同様に文中にも出現し、話し手の聞き手への敬意を表す。濟州方言の終助詞「=yey」が、韓国語標準語の丁寧形終助詞「=yo」が体言や副詞、接続語尾に後続して聞き手に尊敬の意味を表す補助詞的な機能を果たすのと同じ働きをする例として、金善美(2015)からは、他に次のような例(6)が

⁴ 例を部分的に修正した。例(4)のデータ情報も例(3)と同様である。

⁵ 例を部分的に修正した。例(5)のデータ情報は次の通りである。1) 録音の日付: 2011年8月21日. 2) 録音の場所: 韓国濟州島(韓国濟州特別自治道)濟州市. 3) 対話者: 召(金: K, P-M) 1923年生まれ, 濟州島出身. 高(コ: K, Y-J) 1960年生まれ, 濟州島出身. 4) 録音者: 金善美。

見つかる。

- (6) 김: 씨어머님이 밥을 헤도예, 우린 영 계도 일로
ssiemenim-i pap-ul heyto-yey, wuli-n yeng keyto il-lo
姑が 飯-を 炊く.ても-**です**ね 私達-は こう そうしても こっち-に
뱅뱅 돌아가명예 짓는다, 짓질 아녀.
peyngpeyng tolaka-meng-yey ces-nunti, ces-ci-l anye.
くるくる 回す-ながら-**です**ね かき回す-のに かき回す-[否定接続]-を しない.[終結]
「姑がご飯を炊いても**です**ね、私達はこうするけれど、こっちにくるくる回しながら
ですね、かき回すのに、(姑は)かき回すことをしない。」 (金善美 2015: 89-90)⁶

例(6)における終助詞「=yey」(日本語訳は「です」)の談話上の役割は、話し手の聞き手への敬意を示すことによって、当該文のスピーチレベルを丁寧体文末形式の「hapnita 体」に固定させる役割をしているのが確認できた。

4. 韓国語全羅南道方言における終助詞

4.1 韓国語全羅南道方言の終助詞を巡る現地調査：年齢層別の調査について

本章では韓国語全羅南道方言の終助詞「=ya」, 「=(i)lawu」, 「=i」について、先行研究での記述を検討しつつ、筆者が 2019 年 8 月末から 2020 年 1 月初めにかけて全羅南道木浦市を中心に行った現地調査で観察した終助詞の例を中心に具体例と用法を見ていきたい。

韓国語全羅南道方言の終助詞に関する先行研究として本稿ではイ・ギガプ(=李基甲 1982)、イ・ギガプ(=李基甲 1998)、イ・ギガプ(=李基甲 2003)、イ・ギガプ(=李基甲 2018a)、李基甲(=イ・ギガプ 2018b)、李基甲(=イ・ギガプ)著・千田訳(2019)、イ・ギガプ(=李基甲 2020)の一連の研究を参照した。これらの研究と関連する内容は 4.2 節以降で述べる。

本節ではまず、韓国語全羅南道方言の終助詞を巡る現地調査に協力してくれたインフォーマントを年齢層別に紹介すると、若年層では 2019 年 8 月末に 20 代の母方言話者 4 名の学生 (K,U-Y・女性・1996 年生まれ、L,S-M・男性・1996 年生まれ、U,I-H・男性・1995 年生まれ、P,S-J・女性・1997 年生まれ) を対象に、2020 年 1 月初めに 20 代の母方言話者 3 名の学生 (C,U-S・女性・1996 年生まれ、C,U-J・女性・1999 年生まれ、L,S-M・男性・1996 年生まれ) を対象

⁶ 例を部分的に修正した。例(6)のデータ情報も例(3)と同様である。

に複数回で各回は2時間ずつ、相互会話・聞き取り調査を行った。また壮年層では2019年8月末に60代の母方言話者3名(K,U-K・男性・1954年生まれ、L,H-H・男性・1960年生まれ、P,J-H・女性・1960年生まれ)、2019年12月末から2020年1月初めにかけて60代の母方言話者3名(L,H-H・男性・1960年生まれ、P,J-H・女性・1960年生まれ、C,Y-H・女性・1950年代生まれ)を対象に複数回で各回2時間ずつ、相互会話・聞き取り調査を行った。また老年層では2020年1月初めに80代の母方言話者2名(C,J-S・男性・1938年生まれ、L,S-S・女性・1939年生まれ)を対象に一回2時間、相互会話・聞き取り調査を行った。

若年層の相互会話(自然発話)からは終助詞の使用は観察されなかったため、K,U-Y(女性・1996年生まれ)さんとL,S-M(男性・1996年生まれ)さんを対象に聞き取り調査を行った結果、次のような使用例が確認できた。

(7) (冬に雪が降る時に独り言で)

cinghakey {chwup-ta/ chwup-ney}.⁷

物凄く 寒い-語尾 寒い-終結語尾なあ

「物凄く寒いなあ。」

(8) (冬に雪が降る時に会話相手に向かって)

kepna chwuw-e=ya?

物凄く 寒い-非丁寧体 hay 体終結語尾-終助詞よね

「物凄く寒いよね?」

例(7)の独り言では終助詞が出現せず、終結語尾の「-ta」と「-ney」しか出現しないことが分かる。ところで例(8)は会話相手の聞き手に向かっての発話だが、その場合は終助詞「=ya」が出現するのが分かる。以下の4.2節でも考察するように、韓国語全羅南道方言の終助詞「=ya」は聞き手待遇のレベルにおいては常に非丁寧化を担いながら、相手に対する「情感」、つまり共感などを表明する役割を担っていることが先行研究(イ・ギガブ 1998)にも指摘されている。

尚、上記の用法は現在の韓国語全羅南道方言の20代の若年層母方言話者間でも使用されていることが筆者の現地調査からも検証された。ただし、筆者の現地調査の時点では、20代の

⁷ 例(7)と例(8)のデータ情報は次の通りである。1) 録音の日付: 2019年8月29日。2) 録音の場所: 韓国全羅南道務安郡国立木浦大学校。3) 対話者: K,U-Y(女性・1996年生まれ・韓国全羅南道出身)・L,S-M(男性・1996年生まれ・韓国全羅南道出身)。4) 録音者: 金善美。

若年層母方言話者の実際の会話（自然発話）からは、これらの終助詞は出現しなかった。理由として3点考えられる。1点目は、初対面の話者同士では方言の使用が回避された可能性があること、2点目は知り合い同士（同じ学科の先輩と後輩、姉妹関係）でも初対面の調査者が同席した状況下では方言の使用が回避された可能性があること、3点目は若年層の方言から伝統的な要素がなくなっていることなどが考えられる。

ところで、2019年8月末から2020年1月初めにかけて韓国語全羅南道方言の60代の壮年層母方言話者を中心に行った現地調査では、若年層と比べた場合、特徴的な点が1点あった。若年層は自然発話の行われる際の人間関係に左右されやすい特徴を見せた半面、日常的に方言を駆使している可能性の高い壮年層では、そのような人間関係に左右されずに普段通りの発話が観察できたという点である。先述したように、壮年層母方言話者を対象とした現地調査では、2019年8月末に60代の母方言話者3名（K,U-K・男性・1954年生まれ、L,H-H・男性・1960年生まれ、P,J-H・女性・1960年生まれ）、2019年12月末から2020年1月初めにかけて60代の母方言話者3名（L,H-H・男性・1960年生まれ、P,J-H・女性・1960年生まれ、C,Y-H・女性・1950年代生まれ）を対象に複数回で各回2時間ずつ、相互会話・聞き取り調査を行った。今回のインフォーマントは互いに親密な関係性を持っているので、初対面同士で出現しがちな方言回避は想定されないと考えられた。もしも方言の使用が回避されるとすれば、まだ知り合っていない調査者の存在がその要因として挙げられると思われたのだが、1名（P,J-H・女性・1960年生まれ）の話者のみはその回避要因を意識せず、複数回の調査に渡って一貫して日常生活で使用していると思われる全羅南道方言の伝統的な形式を多用して発話を行った。以下では1例（K,U-K・男性・1954年生まれ）を除き、残りの例文がそのP,J-H（女性・1960年生まれ）さんの発話で出現した実際の発話例である。老年層の発話の分析は次回の論文で行う予定である。

4.2 「=ya」 と 「=(i)lawu」

ここから韓国語全羅南道方言の終助詞「=ya」と「=(i)lawu」について考察する。まず終助詞「=ya」については、イ・ギガプ(1998)が「=ya」は文の終結語尾「-e」「-cey」「-ci」に付いて、当該文のスピーチレベルを非丁寧体文末形式の「hayla体」に固定させる役割をすると指摘している（例(9)）。

(9) pakkas-i cinghekey⁸ chwup-ci=yā?(↑) (=pakki koyngcanghi chwupci?)

⁸ 例(7)の「cinghakey」と例(9)の「cinghekey」はともに「物凄く」を意味する全羅南道方言だが、2021年3月現在、グーグルのヒット数を調べると「cinghakey」が398,000件、「cinghekey」が25,100件ヒットする。

外-が 物凄く 寒い-確認の語尾-終助詞よね？

「外が物凄く寒いよね？」

(イ・ギガブ 1998:486)⁹

例(9)において終助詞「=ya」が付くことによって相手への共感・同意を求める意味を込めることになるのだが、状況依存的語尾、即ち例(9)のように聞き手に同意・確認を求める語尾「-ci」に終助詞「=ya」が後続する場合は、文末が上がる抑揚になる。イ・ギガブ(1998)も指摘しているが、助詞はそれ自体が叙法を決定する力がないため、状況依存的語尾「-ci」「-cey」に後続する場合は、抑揚をつけることによって叙法を決定することになる。

金善美(2020)でも韓国語の丁寧形終助詞の「=yo」と、終助詞「=kulye」について、独話や心内発話においては使われず、必ず聞き手が存在する際に現れることを指摘した上で、事態認識上の分析・感嘆・驚き・確認という情報を再認識させる情報管理機能については担わないことを指摘している。つまり、韓国語標準語の終助詞も話し手の聞き手への情感・共感・敬意を伝える機能は持っているが、その機能も、情報の確認等の情報管理機能は直前の語尾の機能を引き継ぐ形で、かつ抑揚をつけるという手段によって遂行される。

次に終助詞「=(i)lawu」についてイ・ギガブ(1998)はソウル方言の「=yo」に対応する終助詞だと説明している(例(10))。即ち、当該文のスピーチレベルを丁寧体にする役割をするということである。次の例(10)を見られたい。

(10) chamallo coha=**lawu**. (=cengmallo cohayo.)

本当に 良い-終助詞ですよ

「本当に良いですよ。」

(イ・ギガブ 1998:489)

例(9)と例(10)から全羅南道方言の終助詞「=ya」「=(i)lawu」は、聞き手待遇の面では、「=ya」は(一待遇)、「=(i)lawu」は(+待遇)の意味を持つことが分かる。

筆者が 2019 年 8 月末に実施した現地調査では、壮年層において 60 代の母方言話者 K,U-K (男性・1954 年生まれ) さんを対象に聞き取り調査を行った結果、次のような使用例が確認できた(例(11)と例(12))。

(11) (冬にとっても寒い日に独り言で)

イ・ギガブ(1998)が発表された当時から 22 年が経った現在、「cinghakey」の使用が圧倒的に多くなっている現状が伺える。

⁹ (†)表示、日本語訳とグロスとは本稿の筆者による。韓国語の例文は以下同様。

atta, cinghakey {chwup-ta (↓)/ chwup-ney (↓)}¹⁰.

感嘆詞 まあ 物凄く 寒い-語尾 寒い-終結語尾なあ

「まあ、物凄く寒いなあ。」

- (12) a. (冬にととても寒い日に同年代から目下の会話相手に向かって)

{mwucihakey/ cinghakey/ hepelnakey} {chwup-ta=ya./ chwup-cey=i? (↑)/

物凄く 物凄く 物凄く 寒い-語尾-終助詞よね 寒い-確認の語尾-終助詞よね

chwup-cey? (↑)/ chwup-ney=i.}

寒い-確認の語尾 寒い-終結語尾ね-終助詞よね

「物凄く寒いよね？」

- b. (冬にととても寒い日に目上の会話相手に向かって)

{mwucihakey/ cinghakey/ hepelnakey} chwup-ci=lawu?.

物凄く 物凄く 物凄く 寒い-確認の語尾-終助詞ですよね

「物凄く寒いですよね？」

例(11) は独話だが、終助詞を伴わない。ところが例(12)は聞き手が存在する場面であり、終助詞「=ya」, 「=(i)lawu」, 「=i」が出現し、聞き手への情感・共感・敬意を伝えていることが確認できた。

一方、イ・ギガプ(1998)は、全羅方言の終助詞の「=ya」は、聞き手待遇のレベルにおいて常に非丁寧化を担うと指摘する一方で、「=ya」が述語文やその他の語尾につく場合もあり、その際は「話し手の聞き手に対して持つ情感を表す機能も担っている」とも指摘し、次のような例を挙げている。

- (13) a. caney-ka cil: cal heney=ya.

君-が 一番 うまい-終助詞なあ

「君が一番うまいなあ。」

- b. cham cohta=ya.

本当に いい-終助詞なあ

「本当にいいなあ。」

(イ・ギガプ 1998: 487)

イ・ギガプ氏によると、例(13b)の「=ya」はソウル方言でも観察されるが、例(13a)の「=ya」は

¹⁰ 例(11)と例(12)のデータ情報は次の通りである。1) 録音の日付：2019年8月28日。2) 録音の場所：韓国全羅南道務安郡一老邑。3) 対話者：K,U-K (男性・1954年生まれ・韓国全羅南道出身)。4) 録音者：金善美。

全羅方言でのみ観察される終助詞であるという（口頭による指摘）。イ・ギガプ(1998)ではその「情感」については詳述していないが、全羅方言の終助詞の「=ya」は、ソウル方言「=ya」のように文のスピーチレベルを非丁寧体に固定する役割もするが、日本語の感嘆を表す終助詞「なあ、わ」と同様の意味を表す。

ただし、済州方言と全羅方言の終助詞は、ソウル方言と比べた場合、スピーチレベルを決定する文末語尾との結合が統一的ではない。韓国語標準語（ソウル方言）、済州方言、全羅南道方言の終助詞が担うスピーチレベルについては第5章で述べる。

4.3 「=i」

イ・ギガプ(2003)によると、韓国語全羅南道方言の助詞「=i」は話し手の聞き手への情感を表す機能を担っていて、鼻声かかった「=i~」として表現されるという。「=i」は当該文のスピーチレベルを非丁寧体文末形式の「hayla 体」に固定させる役割をし、叙述・命令・勧誘の叙法には結合可能だが疑問法には結合不可とし、次のような例を挙げている。

(14) a. chamallo cohta=i.

本当に 良い-終助詞ね

「本当に良いね。」

b. ennung mwukela=i.

早く 食べて-終助詞ね

「早く食べてね。」

(イ・ギガプ 2003: 174)

ところで、イ・ギガプ(2003)によると、この「=i」は「話し手の感情を表している関係から文内の大部分の成分に結合可能な自由な分布を持つ」と指摘し、次のような例を挙げている。

(15) kulengkkey=i, nayka=i, mwesinyamun=i, calmoshaysstako=i.

だから-ね 私が-ね 何かと言うと-ね 間違ったと-ね

「だからね、私ね、何かと言うとね、間違ったとね。」 (イ・ギガプ 2003: 174)

上の例(15)のような文中に出現する全羅南道方言の非丁寧体終助詞「=i」の用法は、前述した、文中に出現する済州方言の丁寧形終助詞「=vey」と、韓国語標準語の丁寧形終助詞「=yo」の用法と同様のものである。

文中に出現する全羅南道方言の非丁寧体終助詞「=i」は、筆者が2019年12月に全羅南道木浦市で行った現地調査においても60代の母方言話者の自然発話から観察することができた。次の例(16)を見られたい。

(16) polissal-lo hayse mekko=i, tto=i,, mwu-lul chay sselekaciko=i,
 麦米-に して たべて-ね また-ね 大根-を 千切り して-ね
 mwu-eytaka tto=i, mwuppap-ilako hay, mwuppap, mwe-ka epssunikka,
 大根-に また-ね 大根ご飯-と 言う 大根ご飯 何-が ないから
 mwu-lul chay sselekaciko kekitaka=i, ku kemun seswuk-I isseyo.
 大根-を 千切り して そこに-ね その 黒い 粟-が あります
 kulako nolan seswuk-i, isse. moluyo?¹¹
 そして 黄色い 粟-が ある 知りませんか

「麦米にして食べてね、またね、大根を千切りにしてね、大根にまたね、大根ご飯とい
 う、大根ご飯。何もないから。大根を千切りにして、そこにね、その黒い粟がありま
 す。そして黄色い粟がある。知りませんか。」

例(16)から韓国語標準語の丁寧形終助詞「=yo」、済州方言の終助詞「=yey」と同様に、文末の
 みならず文中にも出現して聞き手への共感・同意を得たいという話し手の感情を伝える機能が
 観察できた。ただし、韓国語標準語の丁寧形終助詞「=yo」、済州方言の終助詞「=yey」は当該
 文のスピーチレベルを聞き手に敬意を示す(+待遇)に固定させる役割をする反面、全羅南道方
 言の終助詞「=i」は当該文のスピーチレベルを聞き手に敬意を示さない、同等な立場であるこ
 とを示す(-待遇)に固定させる役割を担う点異なる。

以上の考察から次の第5章では韓国語標準語（ソウル方言）、済州方言、全羅南道方言の終
 助詞が担うスピーチレベルについてまとめることにする。

5. 結論：韓国語標準語、済州方言、全羅南道方言の終助詞が担うスピーチレベル

ここまでの考察を基に韓国語標準語（ソウル方言）、済州方言、全羅南道方言の終助詞が担
 うスピーチレベルをまとめると次の<表1>の通りである。

¹¹ 例(16)のデータ情報は次の通りである。1) 録音の日付：2019年12月30日。2) 録音の場所：韓国全羅南道木浦
 市。3) 対話者：P,J-H（女性・1960年生まれ・韓国全羅南道出身）。4) 録音者：金善美。

<表 1> 韓国語終助詞の担うスピーチレベル

1. 標準語 (ソウル方言)

- ① 「=yo」 (+待遇) : 文末・文中出現可能 (本稿で考察)。
- ② 「=kulye」 (±待遇)

2. 済州方言

- ① 「=massum/=massim」 (+待遇)
- ② 「=yang」 (+待遇)
- ③ 「=yey」 (+待遇) : 文末・文中出現可能 (本稿で考察)。
- ④ 「=i」 (-待遇)
- ⑤ 「=key/=keyn」 (±待遇)
- ⑥ 「=ya」 (-待遇)、済州方言としては若年層で使われている新方言。

3. 全羅南道方言

- ① 「=(i)lawu」 (+待遇)
- ② 「=ya」 (-待遇)
- ③ 「=i」 (-待遇) : 文末・文中出現可能 (本稿で考察)。

上の<表 1>のように、本稿の考察から韓国語の終助詞としては、「=yo」と「=kulye」しか持たない韓国標準語 (ソウル方言) に比べ、韓国語済州方言は「=massum/=massim」, 「=yang」, 「=yey」, 「=i」, 「=key/=keyn」, 「=ya」の6種類が、韓国語全羅南道方言は「=(i)lawu」, 「=ya」, 「=i」の3種類が現在も壮年層の母方言話者の自然発話においても観察されているように現存していることが確認できた。またこれら終助詞は、一部を除き、その多くが聞き手が存在する際に現れ、話し手の聞き手への情感・共感・敬意を伝える機能を担っていることが確認できた。ただし、それらの機能は、情報の確認等の情報管理機能は直前の語尾の機能を引き継ぐ形で、かつ抑揚をつけるという手段によって遂行されることも改めて確認できた。

<表 1>で済州方言終助詞の「=massum/=massim」、全羅南道方言終助詞の「=(i)lawu」も文中で出現可能だという記述が一部の先行研究で見られるが、本稿では標準語 (ソウル方言) からは「=yo」、済州方言からは「=yey」、全羅南道方言からは「=i」を中心に上げ、終助詞が文中と文末の両方で出現が可能だということ、またそれぞれが担うスピーチレベルを当該文に固定させている点を確認した。他の終助詞の出現様相については今後の課題とする。

<参考文献>

- イ・ギガブ(=李基甲, 이기갑 1982) 「전남 북부방언의 상대높임법」 (全南北部方言の対者尊敬法) 『언어학』 (言語学)5: pp.143-162, 사단법인한국언어학회(社団法人韓国言語学会).
- イ・ギガブ(=李基甲, 이기갑 1998) 「전남방언의 상대높임법」 (全南方言の対者尊敬法) 『한글』 (한글)240, 241: pp.355-396, 한글학회(한글学会)(再収録: 李秉根・郭忠求編(1998) 『국語학講座 6 方言』 : pp.449-493, 太學社(韓国).
- イ・ギガブ(=李基甲, 이기갑 2003) 『국어 방언 문법』 (韓國語方言の文法), 太學社(韓国).
- イ・ギガブ(=李基甲, 이기갑 2018a) 『국어 방언의 담화표지』 (韓國語方言の談話標識), 凶書出版亦樂(韓国).
- 李基甲(=イ・ギガブ, 이기갑 2018b) 「韓國語方言의 談話標識」, 第 69 回朝鮮学会大会公開講演, 朝鮮学会, 於: 天理大学.
- 李基甲(=イ・ギガブ, 이기갑)著、千田俊太郎訳 (2019), 「韓國語方言의 談話標識」『朝鮮學報』 251: pp. (1)–(41). [原著: 한국 방언의 담화표지], 朝鮮学会.
- イ・ギガブ(=李基甲, 이기갑 2020) 「동사와 감탄사의 조사화 (動詞と感嘆詞の助詞化)」, 社団法人韓国言語学会 2020 年冬學術大会「歴史言語学の理論的展開と展望」, 社団法人韓国言語学会, 於:リアルタイムオンライン會議(Zoom 大会).
- 金善美(2015) 「韓國語濟州方言의 自然發話의 書き起こしテキスト—昔の食べ物—」『ありあけ熊本大学言語学論集』 14: pp.81-105. 熊本大学文学部言語学研究室.
- 金善美(2018) 「韓國語と日本語の独話における終助詞・終結語尾と情報管理機能」第 69 回朝鮮学会大会, 朝鮮学会, 於: 天理大学.
- 金善美(2020) 「韓國語と日本語の終助詞と終結語尾の情報管理機能について」『ありあけ熊本大学言語学論集』 19: pp.33-46. 熊本大学文学部言語学研究室.
- コ・ジェファン(=고재환 2011) 『제주어개론 하』 (濟州語概論下), 凶書出版포그社(韓国).
- 益岡隆志・田窪行則(1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』 くろしお出版.
- TIDA Syuntarô, Ko Young-Jin and Kim Sunmi(2012) Morphological system of tense aspect and modality in the Jeju dialect of Korean, The International Symposium on Contrastive and Descriptive Studies of Japanese and Korean Dialects 2012 With Special Focus on Jeju Dialect of Korean and Tense Aspect and Modality, Kyoto University, Kyoto. 2012 年 11 月 4 日.
- 千田俊太郎(2017) 「ウェブと語彙集: 朝鮮語濟州方言語彙研究の課題と展望」『ありあけ熊本大学言語学論集』 16: pp.35-46. 熊本大学文学部言語学研究室.
- (きむ・そんみ 天理大学国際学部)